

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。 (1)オ
(思、判、表等) 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 Cア
(学びに向かう力等) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

- ・アルファベット未履修の子どものための入力支援。
- ・学習支援ソフト上を活用した事柄の順序の視覚化や共有・検討。

【つかむ】

鳥やくちばしに興味をもち、
学習の見通しをもつ。

【追究する】

「問い」や「答え」という文章形式を
確かめながら、内容を読み取る。

【まとめる】

「問い」と「答え」という
文章形式をいかした
生き物クイズを作り、
発表する。

事例の概要

- 個人IDとログインPWのアルファベットとかな入力を置き換えた「個人カード」の活用。
- 自分で考えた「問い」「答え」「説明」を学習支援ソフトにまとめ、友達と共有・検討。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 個人カードを活用し、一人でICT端末を起動する。
- 学習支援ソフトを活用し、「問い」「答え」「説明」の構成を分かりやすく色付けしたワークシートを使い、順序立ててクイズを作成する。
- グループで、ICT端末を使ってクイズを出し合い、「問い」「答え」「説明」の文書形式を確認する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 各グループ1名ずつ発表者を決めて、クイズを発表する。
- 学級全体でクイズの文章が「問い」「答え」「説明」の形式になっているかを確認する。

【国語・小1・「くちばし」】①

【小学校1年生が無理なくICT端末を活用するための工夫】



- ・個人IDとPWのアルファベットをかなに置き換えた「個人カード」を配布する。
- ・授業の始めと終わりに担任が回収し、情報漏洩などの管理徹底。また、児童が集める際に、裏にして渡すなど情報モラルの基礎を培う。



- ・使用するアプリのアイコンを黒板に示し、自分で探してタブレットを使用できるようにする。
- ・使う際には、黒板のアイコンを確認する。

【事例におけるICT活用の場面①】



- 事前に「問い」「答え」「説明」の文章形式になるように、学習支援ソフトで色付けをしたワークシートを配布し、児童が文章形式に合わせて文章を考えて作成する。
- ICT端末内の同じワークシートで作成をしているため、友達の文章形式が「問い」「答え」「説明」になっているのか、自分の作成した文章と照らし合わせて確認をすることができる。
- 学習支援ソフトで作成することで、全体への共有や担任への提出の時間を短縮することができる。

【事例におけるICT活用の場面②】

- ICT端末をプロジェクターに繋ぎ、スクリーンに映し出すことで、学級全体にクイズを共有することができる。また、発表原稿を作成しておくことで、発表者は読むことに集中ことができ、安心して取り組む様子が見られた。
- 発表者が作成したクイズを見やすく共有したことで、「問い」「答え」「説明」の文章形式を確認しやすく、本単元の学習を全体で振り返ることができた。
- 学習支援ソフトを活用することで、児童が作成したクイズを提出する時間を短縮ことができ、共有・検討する時間を十分にとることができていた。

